

Tea or Coffee?

麻生 哲郎

ASO Tetsuro

Tea or coffee? ではないが、上田さんにしますか、それとも宗片さん?と問われれば、私の場合、宗片さんですね。なぜなら、高校の級友としての付き合いだけで、別々の大学へ進学後は、それが途絶え、消息も風の便りとなり、その後、宗片君が上田君になっていたことはつゆ知らずに、半世紀近く過ぎていた。

そんなある時、とつぜん上田（宗片）さんから、自作の能「リア王」の再演を観に来ないかと誘いを受け、えっ！あの宗片君の！能！しかもご自身は英語の能も演っている！と、何重もの驚きをかかえて能楽堂へ赴いた。それはまた、50年ぶりに久闊を叙する思いがけない機会でもあった。高校生の頃の宗片君は秀才の誉れが高く、かつ女生徒が騒ぐ美少年であった。今や、すっかりお茶の水博士のようになっていたので、一瞬戸惑った。（かく言う私とどう見えたやら）しかし、あの頃の美少年の面影がまだ十分に残っていることを、あわてて付け加えておく。

さて、わが宗片君が上田さんになって立派な教育者、創作者、演技者になっている間、私は平凡な会社勤めに終始し、引退後はしがたい旅の絵描きに転じて20余年になる。そんな私が「リア王」の舞台で観世流足立禮子師が演ずるコーディリアを客席からスケッチして上田さんに贈った。それから程なく、上田さん原作の創作能「ポトマック桜 尾崎行雄とエイブラハム・リンカンの夢」に招かれた。私はこのドラマを手作りで一冊の絵草紙にしようと思い、なんとか仕上げて上田さんに一方的に贈呈した。「これはお宝だ」と彼は喜んでくれた。

さて、紅茶かコーヒーのことであるが、私にとって上田さんは高嶺の大学教授で近づき難く、一方、宗片さんは身近な懐かしい高校の級友である。あの宗片君が教育公務の功労者であり、創作能の俊英であったことを知らないでいた、私の世間知らずを、叙勲の知らせを聞いた今、実に嘆かわしく思っている。

ところで、最近、なぜか eメールの差出人名がウエダからムナカタに変わった。理由は訊けばすぐ分かるだろうに、紅茶もコーヒーも両方好んで喫んでいる身として、あえてナゾにしている。

話を「ポトマック桜」に戻す。原作者の言葉を借りれば、この能は、今日世界最大の課題である真の民主主義、人民のための政治、そのための武力（戦争）によらない平和の達成に答えんとするものであり、それが正に尾崎行雄が生涯をかけてその実現を追求した課題であった。尾崎と亡霊のリンカンが、手を携えて「殺すな、戦こうな。殺すな、戦こうな」と謡いながら共に舞う場面は圧巻である。上田さんの絶対平和の願いが強く反映していて、昨今の時局に鑑み、共感を呼ぶ。

叙勲の天皇拝謁の機会に天皇と言葉を交わしたのは健常者では自分だけだったらしいと上田さんは

英文メールで語っている。二人の共通の恩師であるブライズ先生に触れて言葉を交わしたのだと言う。天皇が反戦主義者であることは誰もが感じている。天皇と上田さんとの間に何か響き合うものがあったと信じたい。

また、同じメールでこうも語っている。叙勲の数ヶ月前に、上田さんは、天皇の御前に座っている夢を見た。そして、夢枕に立つというのであろうか、右隣に誰かもうひとりの人物が座っていた、と。おそらくその人物は、座禅をくむ「ブライズ先生」ではなかっただろうか。

(画家・鶴岡市出身)